

天守昇降機先送り表明

河村市長「丁寧に対応」

討論会差別発言

名古屋城天守の木造復元事業のバリアフリー化を巡る市民討論会で差別発言があり、文化庁への計画提出が遅れる見通しとなったことについて、名古屋市の河村たかし市長は十二日、報道陣に「討論会で起きた問題にしっかりと丁寧に対応する必要がある」と述べ、昇降機の導入方針などの判断を先送りする意向を正式に表明した。バリアフリー化の方針決定や文化庁への計画提出の時期は未定としている。

市は同日、有識者による市の全体整備検討会議を開催し、市幹部が討論会での差別的な発言を制止できなかったことなどを謝罪。当初は開発中の小型昇降機（四人乗り）の設置階数などを盛り込んだ最終的な復元計画を諮り、速やかに文化庁に提出する予定だったが、この日はバリアフリー化策は示さなかった。



河村市長は報道陣に「市民を」傷付けた発言があった

バリアフリー化の判断を先送りする方針を表明した河村たかし名古屋市長。十二日、名古屋役所で

名古屋城木造復元事業のバリアフリー方針を巡る経緯

| | |
|------|--|
| 6月3日 | 名古屋市長が「市民討論会」で参加者が障害者に対し差別的な発言をする |
| 5日 | 河村市長が討論会で差別的な発言を止められなかったことを陳謝。障害者団体が市に抗議文を提出 |
| 6日 | 市議会経済水道委員会が市側の討論会での対応を問題視 |
| 12日 | 全体整備基本計画案を諮る「差別発言」を市がバリアフリー問題に丁寧に対応する |

12日までにまとめる予定だった計画案の文化庁への提出時期が未定に

上層階までの設置を求めたのに対し、導入に反対する一部の参加者が「ずうずうしい」「おまえが我慢せえ」などと発言。身体的ハンディキャップをやゆする言葉もあった。討論会に出席していた河村市長は五日の定例会見で、主催者として発言を止めなかったことを謝罪した。

状況では昇降機を付けてくれば、やめてくれという人たちは交わらない。どこかでお互い納得できるように丁寧に対応する必要がある。河村市長は「史実に忠実な復元には反対しないが、みんなが同じ階層に登れるようにすべきだ。排除されていると感じる」と昇降機の

名古屋城木造天守への昇降機の導入を巡っては、市民の間で意見が割れ、名古屋市に対して有識者から「対立構図にしてはいけない」などと、慎重な対応を求める声が出ている。

「史実に忠実な復元」にこだわる河村たかし市長は、これまで「エレベーターは要らない」という人は多い」と繰り返し発言。市は現在の計画案で、開発中の小型昇降機（四人乗り）を少なくとも地上の石垣から一階までは設置する方針を示している。

「利点と欠点 議論を」

有識者、対立構図に警鐘

一方、市が四・五月に実施した市民アンケートでは、小型昇降機の導入について「五階の最上階まで」が最多の47%だった。ただ、昇降機を「設置しない」「地上の石垣から一階まで」も計四割に上り、両者の意見は拮抗している。

こうした現状について、市のバリアフリー検討会議の委員を務める東洋大名誉教授の高橋儀平氏（建築計画、バリアフリー）は「昇降機を付けるか、付けないか、『1』か『0』かで論じられてしまっている。このま

までは禍根を残す」と指摘。「昇降機の技術開発の状況や、設置することの利点と欠点の議論をもっと深めるべきだ」と訴える。差別発言があった市民討論会の二日後の五日に開かれた同検討会議でも、有識者から「対立軸をつくってしまっている」など市への進め方への苦言が相次いだ。福祉分野の専門家からは「みんなが平等にお城を楽しむことができないなら、代替手段も考えていくことが必要」との意見も出た。

（鈴木龍司、高田みのり）